

報告（3）

取扱注意

標準学力検査NRT（平成31年2月実施分）並びに
標準学力分析検査フクト（平成31年4月実施分）
の結果について（報告）

- 資料1 平成30年度「標準学力検査（NRT）」結果
- 資料2 平成31年度「標準学力分析検査（フクト）」結果
- 資料3 小学校NRT・中学校フクト 標準偏差値経年変化
- 資料4 平成31年度中学校フクト学校・学年別結果

平成30年度 標準学力検査（NRT）結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2 調査対象の学年

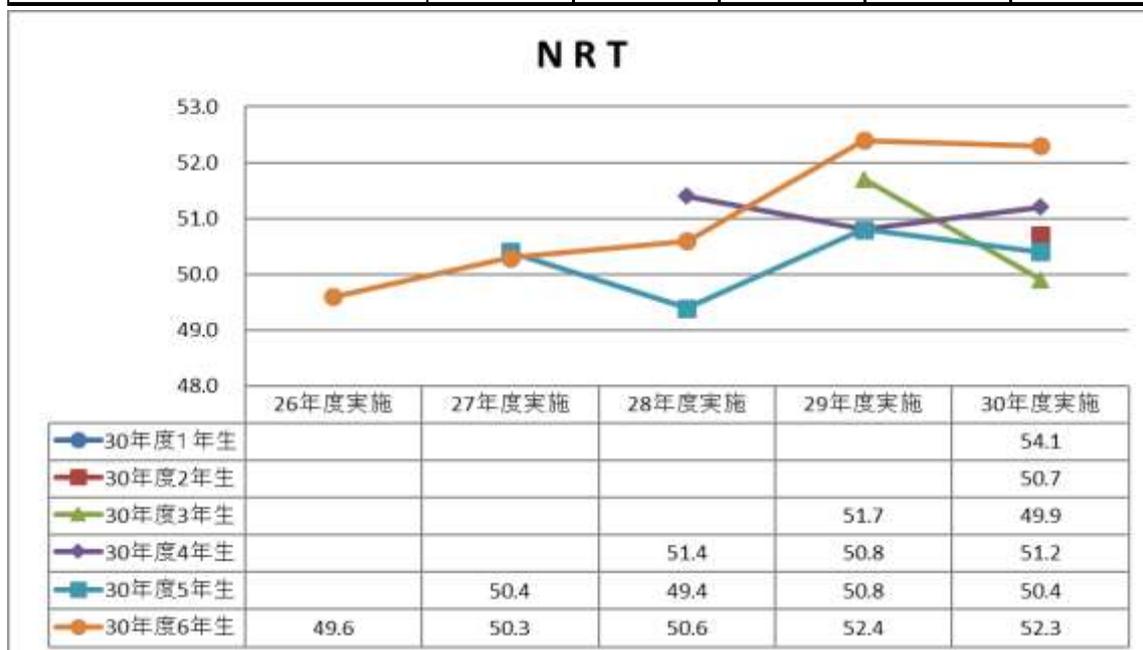
小学校第1学年から第6学年

3 調査の内容

前年度までの学習内容（国語・算数）

めざせ！標準偏差値（52）超え！！

	26年度実施	27年度実施	28年度実施	29年度実施	30年度実施
嘉麻市平均	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4
標準偏差値との差異	0.0	0.8	0.7	1.5	1.4



- 標準偏差値（50）を超えることを目指して取り組んできた結果、24年度は（48.6）でしたが、26年度には（50）に達しました。30年度は（51.4）という結果であり、昨年度より0.1ポイント下降しているものの、5年連続（50）を超えることができました。

【成果】

- 各学校で短期改善検証サイクルが確立し、各学校の課題に応じた短期指標を立て、学力向上策をより具体化して取組を進めた結果であると考えます。
- 基礎基本の徹底に向け、個に応じた支援を促進する教材や指導方法の提示を行った結果、指導と評価の一体化が図られてきたものと考えます。

【課題】

- 基礎的・基本的な内容の習熟及び思考力・判断力・表現力の程度に関して、未だ、学校間・学年間・学級間格差が見られます。

【改善策】

- 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を目標に、形成的評価の充実と評価後の習熟度別指導の徹底を図ります。また、「書く活動」「主体的・対話的で深い学び」の視点を位置づけた授業づくりを推進します。
- 学習習慣の定着を図り一人一人が伸びを自覚する学びを成立させるよう、個に応じた週末課題の提示を進めます。

平成30年度 標準学力分析検査結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2 調査対象の学年

中学校全学年

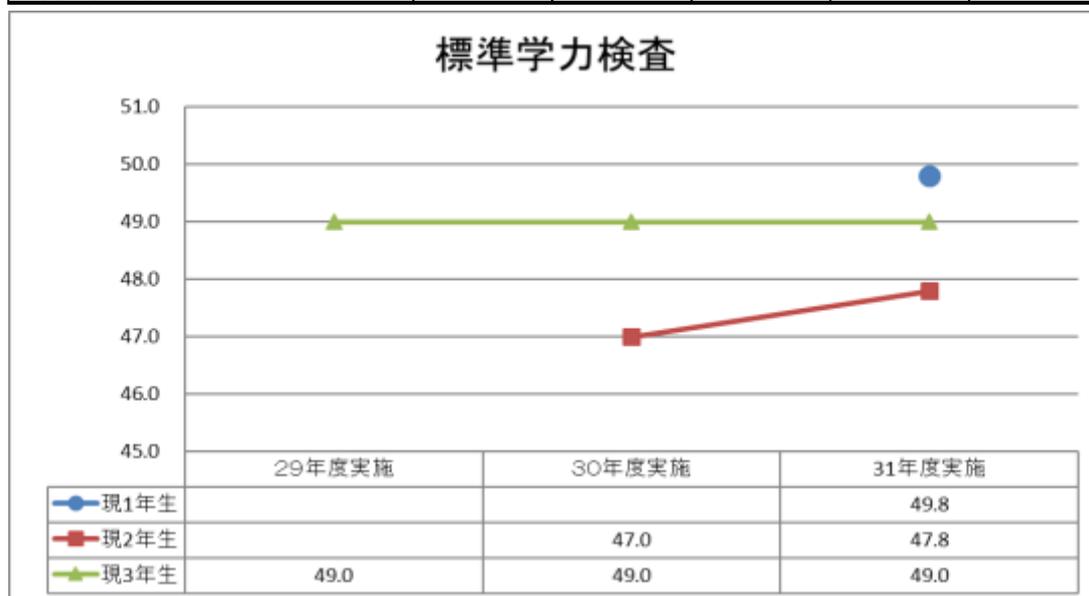
3 調査の内容

前年度までの学習内容

- ・ 1年生（国語・社会・数学・理科）
- ・ 2、3年生（国語・社会・数学・理科・英語）

めざせ！標準偏差値（50）超え！！

	27年度実施	28年度実施	29年度実施	30年度実施	31年度実施
嘉麻市平均	47.0	47.3	47.6	49.3	48.8
標準偏差値との差異	-3.0	-2.7	-2.4	-0.7	-1.2



- 標準偏差値（50）を超えることを目指して取り組んできた結果、24年度から徐々に向上しています。30年度は、市の偏差値が（48.8）であり、昨年度から0.5ポイント下降しているものの、ここ数年は標準偏差値（50）に近づいています。

【成果】

- 各学校で短期改善検証サイクルが確立し、各学校の課題に応じた短期指標を立て、学力向上策をより具体化して取組を進めた結果であるととらえます。
- 基礎基本の定着に向け、各学校で補充学習の設定がなされ、個に応じた指導の推進が図られました。

【課題】

- 基礎的基本的な内容の習熟及び思考力・判断力・表現力の程度に関して、未だ学年間・教科間に格差が見られます。

【改善策】

- 嘉麻市中学校教科教育研究会及び校内研修の内容を充実させ、「書く活動」「『主体的・対話的で深い学び』の視点」を位置づけた授業づくりや思考力、表現力等を問う定期考査をもとにした授業改善を進めていきます。
- 検証改善サイクルのスパンをこれまでの実践よりも短く設定し、短期指標を教師も生徒も明確にもち、指標を乗り越えるための学習を成立させます。

【小学校 標準学力検査 NRT】



【中学校 標準学力分析検査（フクト）】

